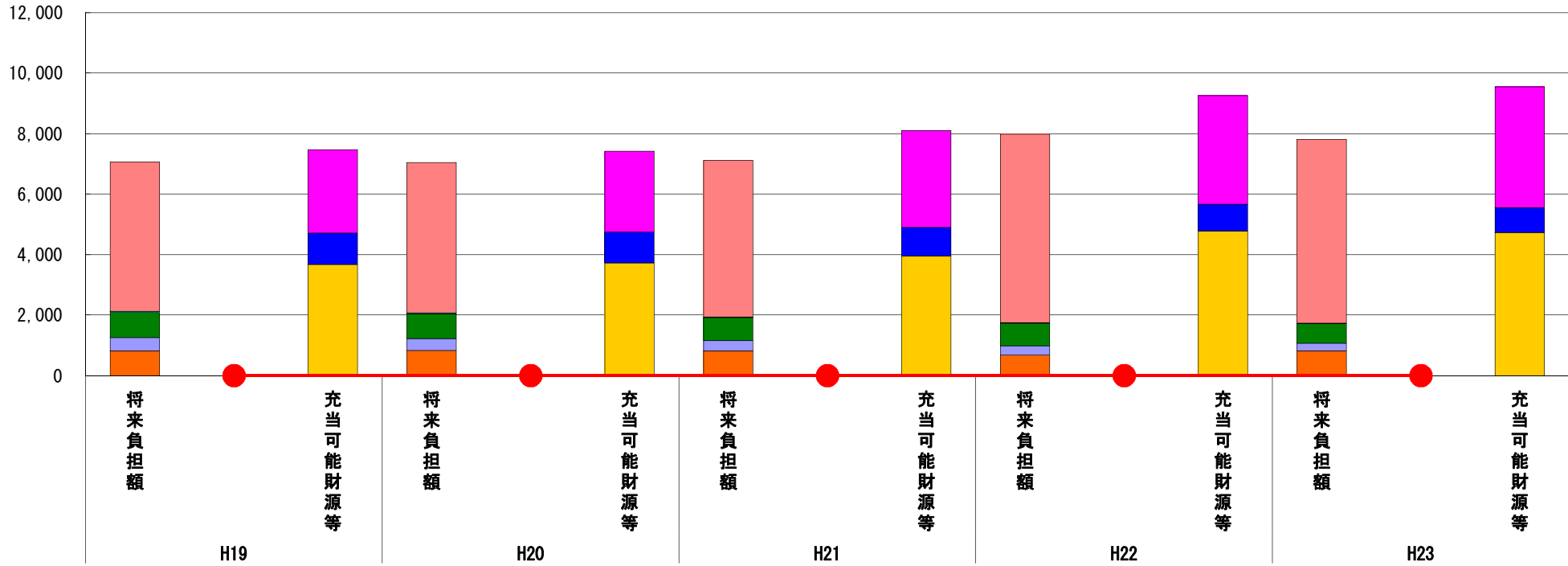


(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

北海道幌延町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		4,925	4,975	5,172	6,235	6,072
	債務負担行為に基づく支出予定額		36	27	21	15	10
	公営企業債等繰入見込額		835	823	757	749	654
	組合等負担等見込額		441	395	348	301	259
	退職手当負担見込額		818	830	811	682	811
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		2,748	2,687	3,185	3,585	3,997
	充当可能特定歳入		1,036	1,015	952	886	820
	基準財政需要額算入見込額		3,681	3,725	3,954	4,783	4,728
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 411	▲ 377	▲ 981	▲ 1,273	▲ 1,738

分析欄

平成21年度までの将来負担額は70億円程度で推移してきたが、平成22年度では、障害者支援施設民営化による北星園会計閉鎖に伴い、退職手当負担見込額が減少したものの、近年の大規模な普通建設事業実施に係る地方債発行が多額となり、80億円程度までに増加した。

しかしながら、発行地方債の多くが後年度交付税算入額の高いものばかりであり、また、基金残高も伸張していることから、充当可能特定財源が増加している。

今後、平成23年10月に普通会計化された診療施設に係る負担が増加していくものと思料するが、定員管理の適正化、地方債発行に見合う基金積み立て等により、財政健全化を図る。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。